

新庁舎建設基本計画策定委員会市民部会
第5回第3分科会 議事要旨(案)

日時：2004年10月16日 10時00分～12時05分

場所：町田市森野分庁舎4階 第4会議室

出席委員：木美分科会長、浅井副分科会長、加来委員、福久委員、北条委員、前田委員、八木委員

傍聴者数：0名

主な議題：1．前回議事要旨の確認
2．庁舎アクセス路について
3．意見交換
4．次回以降の検討テーマについて

審議内容：

< 今回のまとめ >

- ・ 歩行者アクセスとして、駅前通りを主要動線として、バリアフリー対応、機能美と景観の両立に配慮すべきではないか。
- ・ 自動車によるアクセスとして、駅前通での忠生方面からの右折が増えることが予想されるため、駅前通りの拡幅等の検討が必要ではないか。
- ・ 中心市街地の交通需要をコントロールする方策も検討すべきである。
- ・ 駐車台数を多くするだけでなく、利用者がどの方面から来ているかを把握した上で、駐車場の導入路、位置等を検討していくべきである。
- ・ 新庁舎は防災拠点の機能も持つが、災害時において防災拠点へ向かう経路という視点で整備することも重要。

< 次回への継続事項 >

- ・ 周辺環境・街並みと一体となった庁舎のあり方について議論する。

議事要旨

1．前回議事要旨の確認

2．庁舎アクセス路について

(資料1に沿って説明)

3．意見交換

駅前通り(新庁舎前面道路)について

(事務局より、第四回分科会において質問があった「駅前通りの歩道の拡幅可能性」に関して報告があった。)

- ・ 前回までの議論として、歩道の拡幅やペDESTリアンデッキの設置などの意見があった。
- ・ バリアフリーへの対応など、機能的な整備については、現在までに十分な検討がなされており、確実に実現されるものと考えているが、景観への配慮に対して市民からどれだ

けの合意が得られるかについて、現段階では分からない。

- ・ 町田市のシンボルロードとして景観的にどう整備していくかの検討が必要である。
- ・ 機能美と景観を両立させることが重要。「見てくれが悪い」ことは「使い勝手が悪い」ことを意味する。
- ・ 歩道幅員の拡幅を行う場合でも、高齢者、乳幼児（ベビーカー）などの利用者の視点に立った整備を検討すべき。
- ・ 歩道の拡幅は現実的には難しいのではないかと。駅前通りは整備済みで、商店等が立ち並んでいる現状において、再度、セットバックは難しい。逆に車道を狭くすることも現実には考えられないだろう。
- ・ 費用はかかるものの、駅から庁舎までをペDESTリアンデッキでつないでほしい。市民アンケートや市に寄せられた葉書でも、ペDESTリアンデッキにより駅から庁舎までをつなぐべきという意見が寄せられている。
- ・ ペDESTリアンデッキの設置は、歩道が広がって始めて整備が可能になる。
- ・ ペDESTリアンデッキは市街地の構造から考えると難しいのではないかと。既存の建物の所有者は、現在の一階部分の人通りが減り、商業活動等に影響することから反対すると思われる。
- ・ 市民ホール前交差点から森野5丁目交差点までの区間については、大きな駐車場を持つ庁舎の出口として、検討されている16mより20mでの拡幅ができるとよい。
- ・ 車による庁舎へのアクセスは、駅方面よりも忠生方面からのアクセスが多くなる、つまり右折によるアクセスが多くなることが予想され、適切な車の進入方法を検討しなければ新たな渋滞を引き起こす可能性がある。

市道町田599号線（横浜線沿い）について

- ・ 現在、車両は対面交通であり、歩道は整備されていない。また、車道に電柱が建っており、歩行者は歩きづらい道路である。
- ・ 現在の幅員と車道に電柱が建っていることを考えると、歩道を整備するのは難しいのではないかと。
- ・ 歩行者専用道路とすることも検討可能だが、既存住民の利便性や横浜線をくぐるための自動車アクセス道路がなくなってしまうことを考えると難しいだろう。
- ・ しかし街の回遊性を考えると、599号線の活用可能性は大きい。

市道町田78号線について

- ・ 現在は車のすれ違いも難しい状況である。
- ・ 今後の拡幅について、現在建っている既存ビルの後退等が前提となるのではないかと。
- ・ 都営住宅側の後退により拡幅が可能ではないかと。
- ・ 市道町田78号線については、何らかのかたちで歩行者アクセス路として整備されることが望ましい。

その他駅からの歩行者アクセスについて

- ・ 歩きやすい道路は、目的地までの距離を近く感じさせる。都庁の動く歩道は好例だと思

う。ただし高齢者には利用しづらいという意見もある。

- ・ 新庁舎は防災拠点の機能も持つが、災害時において防災拠点へ向かう経路という視点で整備することも重要だ。先日の台風時に横浜線沿いの道を歩いたが、風が強くて歩くことも難しかった。風除けのアーケードが必要と感じた。
- ・ ペDESTリアンデッキも風が通り抜けることから設置は難しいのではないかと。
- ・ また地下道の設置は、水害時に水が入り込む危険性があることから難しい。
- ・ アクセス路の議論を通じて、街全体の発展にどれだけ貢献できるかについて考えていくべきではないか。

ソフト面での施策について

- ・ 交通情報システムによる渋滞や駐車場情報の提供も検討していくべきである（例：八王子市街地、厚木市街地）
- ・ パークアンドライドの活用により、中心街への車両の流入を抑えることもできる。
- ・ 庁舎から駅までの循環バスを走らせることで、交通量を減らすこともできる。
- ・ 現在の交通体系をどう変えていくかの検討も重要である。現在、新庁舎敷地を利用しているタクシーをどうするのか、バス路線を新たにどう設定していくのか、など。都心の交通体系を見ると、駅に車が集まってしまう構造になっている。
- ・ バスについては、通勤時などのピーク時とオフピーク時において、運行時間や経路を変えることも可能なのではないかと。例えば、通勤時間帯は駅を起終点としてバスを運行し、その他の時間帯については新庁舎等を起終点とするバスの運行スタイルを検討してもよいのではないかと。これにより、駅ターミナルでのバス停留などが減り、渋滞緩和ともなるのではないかと。また、南地区から来庁する場合、駅でバスを降りて歩いて新庁舎にアクセスする必要があると、南側から新庁舎まで直通のバス路線が運行されてよいと思われる。
- ・ 今までの道路づくりは、車優先で、考えられてきた。これからの道路づくりは、歩道(人)優先で地域住民の意見を中心に考えていくべきである。

駐車場・駐輪場の整備について

- ・ 現庁舎では、駐車場に入るための外待ち渋滞が発生している。
- ・ 新庁舎では、駐車台数を多くするだけでなく、利用者がどの方面から来ているかを把握した上で、駐車場の導入路、位置等を検討していくべき。また利用者の年齢層によっても、来庁手段は異なる。例えば高齢層であれば、公共交通機関の利用が多い、若年層であれば自家用車での来庁が多いといった傾向を掴む必要もあるのではないかと。実際に駐車場を利用している市民に対して、アンケート等を実施することも考えられる。
- ・ 町田市に限ったことではないが、放置自転車・自動二輪車(バイク)の問題は大きい。特にバイクは止める場所がないのが現状であり、庁舎の敷地にバイク置き場をつくってほしい。
- ・ 来庁のピーク時、オフピーク時にあわせて、柔軟に変化する駐車場でもよいのではないかと。

庁舎のあり方について

- ・ 地方分権により、地方自治体の仕事量は増える一方で、IT社会（インターネット社会）の進展により、外出しなくても用を足せる時代が来る。
- ・ 来庁目的も、本日のような会議出席に限られてくるのではないか。
- ・ 逆に人と人との対話が増え、1対1で対応する仕事が増えていると言われている。IT化により単純に人が減らせるかは疑問がある。
- ・ 庁舎が40万人の市民すべてに対応しなければならないという前提が果たして必要かどうか。
- ・ 埼玉県志木市では、行政のスリム化にともない、庁舎のコンパクト化を実現している。
- ・ 今までの市役所機能を追従しても意味がない。新庁舎建設にともない、市役所の新しい顔を見せることが重要。

4. 次回の検討事項について

- ・ 次回は、周辺環境・街並みと一体となった庁舎のあり方について議論する。

分科会で使用した資料

- ・ 前回分科会の議事要旨（案）
- ・ 資料1：庁舎アクセス路について

以 上